

# 視察研修・研修会等報告書

議員番号[2] 議員名[桂川 融己]

1 年月日	令和7年10月19日-10月22日（日数 3泊4日）
2 場所	香川県高松市、香川県香川郡、香川県小豆郡 等
3 視察・研修事項	瀬戸内国際芸術祭
4 面接者	特になし
5 視察研修、研修会の成果	<p>本視察を通じて明らかになったのは、瀬戸内国際芸術祭が「移動・空間・人」の3要素を統合した“体験設計の仕組み”であるという点である。単なるアートイベントではなく、来訪者の行動や感情まで含めて設計された、地域運営のモデルとして成立している。</p> <p>以下、その構造を整理する。</p> <p><b>1. 移動の設計 ～「制約」を体験に変えている～</b></p> <p>結論:移動そのものがコンテンツになっている</p> <p>瀬戸内国際芸術祭の大きな特徴のひとつは、島嶼部を舞台としている点にある。そのため移動手段は船に限定されており、交通の自由度は高くない。</p> <p>実際、フェリー乗り場では「積み残し」という言葉が使われ、希望の船に乗船できない来訪者が発生していた。直島行きでは、早朝から並ばなければ乗れない状況も確認された（出航1時間半前に到着したら、さすがに先頭付近ではあった）。</p> <p>しかし、このような制約は単なる不便ではなく、非日常の体験として機能している。船に乗るという行為そのものが特別であり、海上の景色やカモメ、出港時の見送りなど、移動過程自体がコンテンツとなっている。すなわち、「現地に到着する前から体験が始まっている」という設計がなされている。</p> <p>一方で、交通容量の制約による混雑や待ち時間といった課題も存在するが、混雑予報やアプリ通知などにより一定の対応が図られている。また民間航路の存在も、運営を支える重要な要素である。</p> <p><b>2. 空間の設計 ～「点在」と「束ね」のバランス～</b></p> <p>結論:島ごとに異なる体験設計が役割分担されている</p> <p>作品は各島に点在しているが、その構造は一様ではない。女木島・男木島はコンパクトで徒歩回遊型、直島はエリア分散型、そして豊島はその中間に位置する風景体験型といえる。</p>

豊島では、集落・農地・海といった風景の中に作品が溶け込んでおり、鑑賞というよりも「島の風景そのものを体験する」感覚が強く印象に残った。また豊島美術館のように、その土地の環境と不可分な作品も存在し、「場所と作品が一体で成立する」構造が見られた。

結果として、男木・女木：回遊型、豊島：風景型、直島：拠点型 という役割分担が成立しており、「複数の体験タイプを組み合わせる設計」となっている。

### 3. 人との関係性 ～「会話」が価値をつくる～

結論：人との接点が体験の記憶を決定づける

印象に残ったのは、作品そのもの以上に、地域の人とのやり取りであった。受付やカフェでの会話、観光案内所での対応など、こうしたコミュニケーションが体験価値を大きく左右している。一方で、無断撮影などへの不満もあり、生活空間と観光の摩擦も存在している。

つまり、「人が価値を生む一方で、摩擦も同時に発生する」という構造がある。

### 4. 国際観光としての側面

結論：イベントを超えた“目的地化”が起きている

直島を中心に海外来訪者が多く見られた。特に台湾からの来訪が多く、SNS等を通じて認知されている。一方で、芸術祭の開催を知らずに訪れている来訪者もあり、「直島という場所自体が目的地化している」ことが確認された。これは単発イベントではなく、「継続的に人を呼び込むブランド形成」がなされていることを意味する。

### 5. 全体構造の整理

結論：複数の仕組みが重なり合って成立している

本視察を通じて、以下の構造が確認できた。

- ・移動(船)＝非日常
- ・空間(点在＋拠点)＝回遊
- ・人(会話)＝体験価値
- ・ブランド(直島)＝継続集客

さらに、

直島：拠点・ブランド

豊島：風景・思想

男木・女木：生活・回遊

という異なる役割が組み合わせることで、「単一ではない、多層的な観光モデル」が成立している。

## 6. 下呂への示唆

結論：意図的な体験設計がなければ成立しない

瀬戸内のような制約は下呂には存在しないが、移動の体験化、拠点設計、会話の設計は応用可能であると感じた。特に重要なのは、「設計しなければ人は動かない」という点である。

また、温泉街(観光拠点・滞在)、萩原(生活・街道)、小坂(自然・廃校)といった各地域・地域資源・特性を組み合わせることで、「複層的な体験設計」が可能となる。

### まとめ

結論：瀬戸内は“体験設計のモデル”である

瀬戸内国際芸術祭は、作品ではなく、「移動・空間・人」の組み合わせによって成立している。その構造を理解し、小さく実装していくことが、下呂における次の一歩になると考えられる。

# 視察報告書

---

## 瀬戸内国際芸術祭

2025.11.4



# 目次

01 視察概要

02 視察の目的

03 スケジュール概要

04 気になった点

05 成果報告

06 課題・改善点

07 次のアクション

08 まとめ

# 01

## 出張概要

### 目的

芸術祭を通じた人の流れと地域経済への波及  
交通・受け入れ体制

### 期間

2025年10月19日（土）～10月22日（水）

### 訪問地

香川県高松市／女木島・男木島／直島／豊島

### 主な活動

瀬戸内国際芸術祭の現地を実際に歩きながら、アートイベントがどのように地域と結びついているのか。観光・交通・宿泊・運営等、現場でどのような課題や工夫があるのかを体感的に確認。

# 02

## 視察の目的

**芸術祭を契機にした地域ブランディングと人の流れづくりの手法**

**移動や滞在そのものを体験価値に変える工夫**

**下呂地域での芸術祭・マルシェ・まち歩き企画などへの応用可能性**

# 03

## スケジュール概要

日付	活動内容	目的
10/19	現地への移動（下呂～名古屋～岡山～高松）	移動・芸術祭の雰囲気への把握
10/20	女木島・男木島 視察	高松市から最も近い2島の視察
10/21	直島 視察・滞在	最も人気の島の視察・滞在
10/22	豊島 視察、戻り（岡山～名古屋～下呂）	豊島美術館 視察

# 04

## 気になった点

### インバウンド率



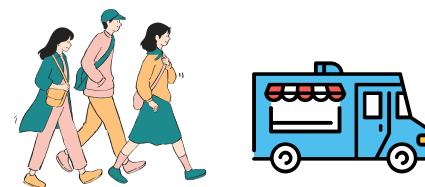
想像以上のインバウンド率  
台湾・韓国等のアジア率高  
めだが、直島・豊島は欧米  
も多く存在。

### 移動の足



島と島の移動の要は船。  
乗船自体が非日常体験。  
レンタサイクル・バスも  
ほどよく配備。

### 歩けるエリア



歩ける地域ではカフェ・飲  
食・休憩所ニーズ。  
土産へのニーズも根強い。  
声掛け等で印象が変わる。

